

令和 6 年 6 月 18 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20H01352

研究課題名（和文）ネクロポリス・テーベにおける岩窟墓のライフ・ヒストリー的研究

研究課題名（英文）Studies of Life History for Rock-cut Tombs in Theban Necropolis

研究代表者

近藤 二郎（KONDO, JIRO）

早稲田大学・文学大学院・名誉教授

研究者番号：70186849

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 13,500,000円

研究成果の概要（和文）：エジプト南部ルクソール市の対岸（西岸）のネクロポリス・テーベに位置するアル＝コーカ地区の新王国時代の岩窟墓群の調査を実施することにより、当該地域における岩窟墓の分布を解析することで、どのように造営され、再利用されていたのかを知る手掛かりを得ることができた。

アメンヘテプ3世治世末期に突如出現するレリーフ装飾を持つ大岩窟墓であるウセルハト墓（TT47）の選地と造営がどのような過程で行われたかのモデルを作成することができた。このことからアマルナ直前のネクロポリス・テーベの様相がかなり明らかになりつつある。

研究成果の学術的意義や社会的意義

これまで新王国時代の岩窟墓の研究は、墓内部の壁画や碑文の調査が中心となっており、絵画資料や文字資料に偏重する傾向があった。本研究では岩窟墓の正確な平面プランの作図や土器や葬送用コーンの詳細な検討により、複数の岩窟墓の正確な時期を特定することで、当該地域の岩窟墓の新旧関係を明らかにすることができた。本研究の中心となっているウセルハト墓は、100年以上、所在地が不明であったものを再発見したものである。また新規に発見した岩窟墓を修復復原することで、現代の人々に3000年以上前の美しい姿を見せることは社会的意義が大いにありと確信している。

研究成果の概要（英文）：We surveyed the New Kingdom rock-cut tombs of Al-Khokha area situated in the Theban Necropolis on the west bank of Luxor in south Egypt, and by analyzing the distribution of the tombs, we learned how rock-cut tombs were built and re-used.

We were able to make into a model the process of choice of location and construction of rock-cut tombs through the survey of the tomb of Userhat (TT47), a great rock-tomb decorated with reliefs in the reign of Amenhotep III. Through this research the overview of the Theban Necropolis right before the Amarna period is starting to show its figure in a clearer way.

研究分野：考古学、エジプト学

キーワード：古代エジプト ネクロポリス・テーベ エジプト新王国 岩窟墓 葬送用コーン 被葬者の称号 被葬者の名前 ライフヒストリー

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

(1)エジプト・アラブ共和国ルクソール市の対岸(西岸)地域は、ネクロポリス・テーベと呼ばれエジプト先王朝時代から墓域が形成されてきた地域である。特に新王国時代(第18王朝～第20王朝)には、「王家の谷」・「王妃の谷」などの王族墓をはじめ、諸王の葬祭殿などの葬祭施設が造営されていた。ネクロポリス・テーベでこれまでに登録されている岩窟墓は415基に及ぶ。近年の研究(Kampp, Friederike 1996)により、登録墓以外に551基の未登録岩窟墓がリスト・アップされているが、大部分の未登録墓の被葬者や正確な造営時期、構造などの多くのデータが不詳である。

(2)研究代表者は、1976年11月以降、エジプト・アラブ共和国ルクソール市の対岸(西岸)に位置する王家の谷・西谷アメンヘテプ3世墓(KV22)、ドゥラ・アブー・アル＝ナージャ地区、アル＝コーカ地区、シェイク・アブド・アル＝クルナ地区、マルカタ王宮址、マルカタ南遺跡等で、47年間にわたり、新王国第18王朝アメンヘテプ治世の王墓や岩窟墓、そして住居址、王宮址等の考古学的調査を実施してきた。このことにより、アメンヘテプ3世の王宮、王墓、そして同王治世の岩窟墓等の多くのデータを蓄積してきた。

(3)2007年12月からは、アル＝コーカ地区で、新王国第18王朝後期のアメンヘテプ3世(在位:前1390～前1353年頃)の治世末期の高官ウセルハト墓(TT47)とその周辺地域の岩窟墓群を対象とした発掘調査を実施してきた。それにより約100年所在が不明となってしまう新王国第18王朝のウセルハト墓(TT47)の再発見や、これまで知られていなかった新王国第19王朝末期(前1200年頃)のビール醸造長コンスウエムヘブの墓(KHT02)と王の書記コンスウの墓(KHT03)の2基の岩窟墓を発見するなど極めて重要な成果をあげてきた。

2. 研究の目的

ネクロポリス・テーベのアル＝コーカ地区において新王国第18王朝アメンヘテプ3世治世末期の高官ウセルハト墓(TT47)を中心とする場所で、これまで実施してきた岩窟墓の調査研究は、従来のエジプト学・エジプト考古学の分野では、単一の墓の壁面の文献史料、図像資料、そして被葬者の副葬品などに焦点を当てたものが中心となっており、墓の造営、使用、廃棄、再利用といったライフ・ヒストリー的な研究は、ほとんど実施されていなかった。また、個々の墓の内部だけではなく、前庭部などで後世の埋葬や堅坑、さらには住居址、土器や道具の廃棄なども明らかになっている。これらの資料は、重要な発見がない限りエジプト考古学においてはあまり扱われることが多くはなかったが、時折断片的ではあるものの墓地の歴史を雄弁に語る史料である。墓外部の発掘調査では、これまで他の調査隊では稀有な日本考古学式の層位的な発掘調査を実施してきており、墓造営時の掘削排土の痕跡やその後の活動による排土の堆積などが明らかになっている。そこで、本研究は、考古学、エジプト学、建築史学、古人類学、文化財科学の専門家が協働し、最新の記録分析方法も駆使しながら、ルクソール西岸の墓地の形成、再利用、廃棄、そして現代に至るライフ・ヒストリーを解明し、よりダイナミックに古代エジプトの墓地における埋葬観念や社会通念の変遷を描き出すことを目的とする。

3. 研究の方法

(1)上記の研究の目的を遂行するために、アル＝コーカ地区のウセルハト墓(TT47)の岩窟墓を中心とする場所の発掘調査を継続することで岩窟墓群の正確な構造や造営年代、被葬者の称号や家族の情報を明らかにしていく。ウセルハト墓(TT47)の岩盤の強化作業を行うことにより岩窟墓壁面の崩落を防ぎながら、ウセルハト墓前室内部の堆積砂礫の除去作業を実施することで前室壁面に描かれた図像や銘文を明らかにし、被葬者に関する情報を得る。

(2)ウセルハト墓(TT47)前室の内部に堆積した砂礫を除去することで、ウセルハト墓の正確なプランを作成するとともに、前室から通じている埋葬室や億室の形状やレリーフや壁画などの図像の有無を明らかにする。

(3)ウセルハト墓(TT47)の前庭部南側に位置するコンスウエムヘブ墓(KHT02)内部の壁面や天井全面に鮮やかに描かれた彩色壁画と銘文の保存修復作業を実施することで、被葬者であるコンスウエムヘブに関する称号や家族関係を明らかにする。また壁画の詳細な検討を行い墓の正確な造営時期や再利用の有無を明らかにする。

(4)発掘調査によって得られた出土遺物を詳細に検討することで、調査対象地域の時期的変遷やこの地に残された個人情報や遺物の性格を明らかにしていく。

(5)この地区で、これまでに発見された出土遺物の中で、特に古代のライフ・ヒストリー研究にとって極めて重要な指標となる葬送コーン(funerary cones)の詳細な分析を行い葬送コーンに押印された名前と称号、家族関係などの情報をまとめる。既に出土している葬送コーンの中で、押印された銘文が不明瞭であるため、どの葬送コーンであるかが不明な葬送コーンの再検査と写真撮影などの観察を行う。

(6)アル＝コーカ地区全体における岩窟墓の分布とそれらの造営時期や墓の被葬者の名前・称号、

そして家族関係などをまとめる。

4. 研究成果

(1) 本研究助成を受けた2020年度・2021年度・2022年度・2023年度のうち、最初の2年間(2020年度・2021年度)は、新型コロナウイルス症の感染拡大のため、研究代表者(近藤二郎)の所属研究機関(早稲田大学)において、研究のための海外出張が制限されていたため、エジプト観光・考古省から発掘調査許可を受けていたにもかかわらず現地(エジプト・アラブ共和国)での調査・研究を実施することができなかった。そのため、前記の研究の方法であげた(1)～(4)の項目に関しては、現地における発掘調査を行えなかったため、全く実施できなかった。(5)のこれまで出土した遺物もまたアル=コーカ地区の調査現場内で保管されており、出土遺物を実見することができないため、従来の調査の際に得られた出土情報や出土遺物の写真や実測図の整理を日本において行った。

(2) 現地調査を実施できなかったため、2020年度・2021年度の2年間は、主に研究の方法の(6)に記されたアル=コーカ地区とその周辺における岩窟墓の分布や情報などをKampp, Friederikeの*Die Thebanische Nekropole, Theben XIII, Mainz, 1996*などの資料を使用して岩窟墓情報を作成した。

(3) 本研究助成の3年目にあたる2022年度は、所属研究機関(早稲田大学)の海外出張の制限も解け、エジプト観光・考古省からの発掘調査の許可も得て発掘調査ができると思われたが、予想に反して、通常は発掘許可後の内務省によるセキュリティのクリアが出なかったため、現地での発掘調査を予定した期日に実施することができなかった。しかし、調査を予定していた2022年12月にエジプト・アラブ共和国に行き、エジプト観光・考古省、および内務省で発掘調査に関する状況などについて情報交換を実施した。その後、ルクソール市の西岸のアル=コーカ地区の発掘調査地を3年ぶりに訪れ、発掘調査を実施できなかったが、現地のエジプト観光・考古省のルクソール考古事務所と西岸のクルナ村考古事務所のダイレクターやインスペクターらと意見の交換をおこない2023年度の発掘調査が実施できるように、協議を行った。発掘調査地を許可を受けて訪問し、遺跡の状況を外から観察することができた。外部からの目視による観察では、ほとんど変化がないように見えた。ネクロポリス・テーベにおいて比較研究のために、調査している岩窟墓と同時期の岩窟墓の細部を観察するために訪れた。

(4) 研究助成4年目にあたる2023年度の発掘調査は、2022年12月にエジプト・アラブ共和国を訪問して以降、エジプト観光・考古省や現地の考古関係者と密接な連絡を取っていたことにより、2023年2月に当初の予定より3ヵ月程遅れたがセキュリティがクリアになり、2023年9月中旬から10月下旬まで、3年8ヵ月ぶりに調査を再開することができた。

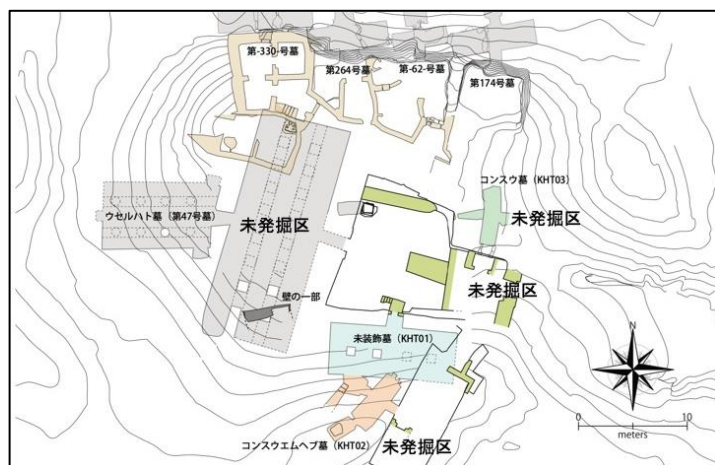


図1 アル=コーカ地区の発掘エリア平面図

人物像と銘文帯、下部の色鮮やかな装飾帯などが姿を現した。ウセルハトと見られる人物像は、明らかに顔の部分に人為的破壊の痕跡が見られ、ウセルハトを示す文字も残存していなかった。人物が着ている衣服の表現は精緻で、白い衣服の襷が浅いレリーフで描かれている。ウセルハト墓の造営時期は、第18王朝アメンヘテプ3世末期と考えられ、「アマルナ時代」直前のテーベにおけるレリーフ表現に重要な作例を新たに加えることになる。ウセルハト墓(TT47)入口正面上部に描かれた被葬者ウセルハトの姿もまた、顔の部分に削られた痕跡が残されており、ウセルハト墓自体が未完成であることも含めて、ウセルハト墓が、大型岩窟墓の造営が開始されてからの段階で、築造工事が中止され、未完成な状況になったかをウセルハト墓より後の時代に造営されたと考えられているケルエフ墓(TT192)などと比較することにより今後、検討していきたい。ウセルハト墓(TT47)の入口部に厚く堆積していた砂礫を岩盤まで除去することができたため、ウセルハト墓の前室の床面上に堆積している崩落した天井部の大礫を含む、多量の砂礫を

2023年9月・10月の調査では、主としてウセルハト墓(TT47)の入口部分とコンスウエムヘブ墓(KHT02)内部の2つのエリアを中心として、作業を実施した。

ウセルハト墓の入口は、上部のまぐさ石に大きな亀裂があるため、入口周囲の岩盤の崩落の危険性があったため鉄製アングルで墓の入口周囲や入口上部のまぐさ石の強化作業を実施したことで、入口下部に堆積している砂礫の除去が初めて可能となった。

砂礫を除去したところ、入口内部の両壁が明らかになり、被葬者のウセルハトを表現したと思われる

入口から前室奥壁（さらには奥室）に向かって、前室の壁面や損傷を受けた前室の石柱や一部が残存している前室の天井部分を保護しながら砂礫除去作業を実施することに目途がついたことは、今後のウセルハト墓の調査研究にとって極めて重要な成果である。

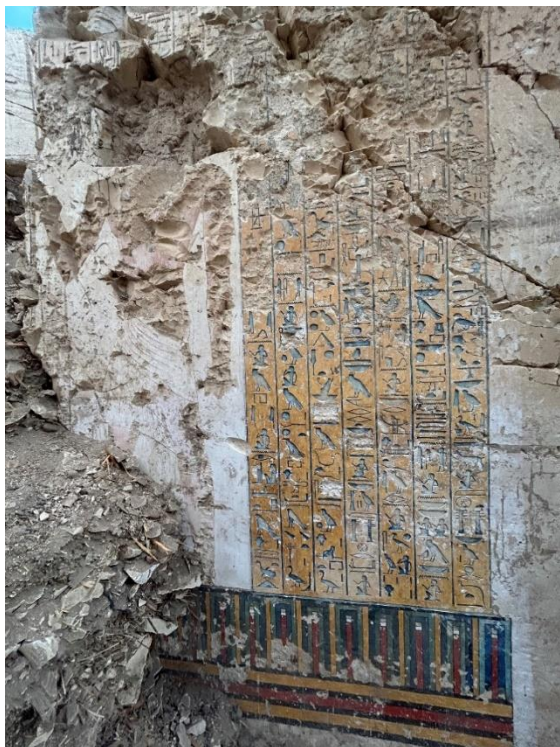


図2 ウセルハト墓入口内側北壁

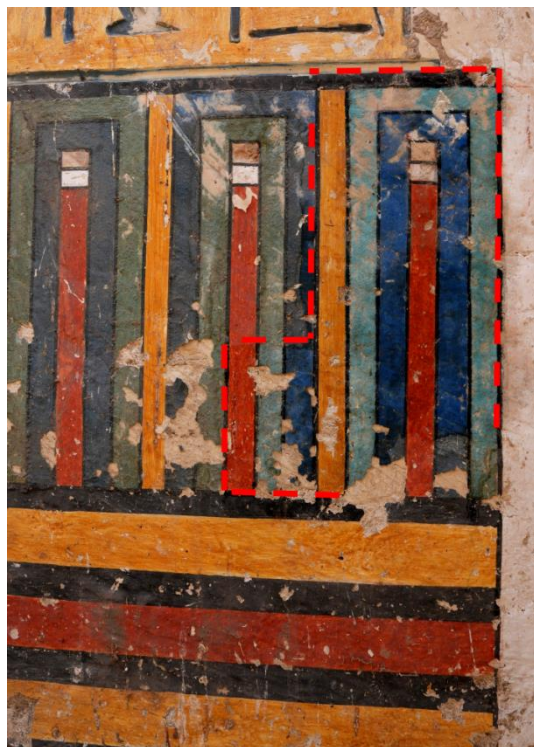


図3 ウセルハト墓入口内側北壁株装飾帯

コンスウエムヘブ墓（KHT02）内部の壁面及び天井部分に描かれた彩色壁画・ヒエログリフの銘文の本格的な保存・修復作業を3年10ヵ月ぶりに実施した。当初は前回実施した保存・修復後の顔料の固定状況や岩盤の移動などのウセルハト墓の内部変化をチェックしたが、目立った変化は見られなかった。2023年度は本課題研究の最終年度であったが、最初の3年間は現地での作業が実施出来なかったため、今後のコンスウエムヘブ墓の保存・修復計画及びコンスウエムヘブ墓の内部のクリーニング計画を作成しなおした。

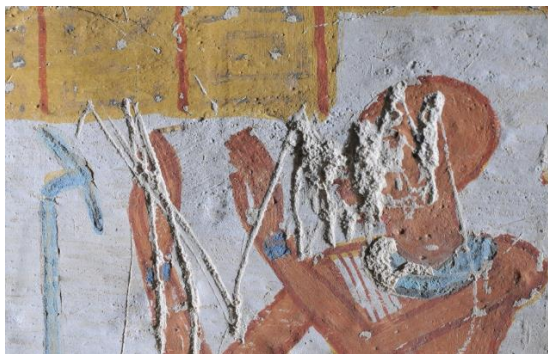


図4 コンスウエムヘブ墓壁画(2017年12月)



図5 修復作業後の図3の壁画(2023年10月)

(5)2023年9月～10月のアル＝コーカ地区での3年8ヵ月ぶりの現地調査にともない調査地域に収蔵されているこれまでの調査で出土した遺物を調査することができた。出土遺物の中で最も新王国時代のライフヒストリーを反映するものとして、アル＝コーカの調査地域出土の葬送コーン（funerary cones）の再チェックを実施した。出土した葬送コーンの中で底部に押印された銘文が判読された個体は300以上に及び、葬送コーンの種類も51を数えたことは極めて重要である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計21件（うち査読付論文 16件／うち国際共著 6件／うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 KAWAI, Nozomu	4. 巻 1
2. 論文標題 Neferneferuaten from the Tomb of Tutankhamun Revisited.	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Wonderful Things: Essays in Honor of Nichoras Reeves, Lockwood Press	6. 最初と最後の頁 109-122
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5913/2023917.12	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 KAWAI, Nozomu	4. 巻 1
2. 論文標題 The Lioness Goddess Statuary from the Rock-Cut Chambers at Northwest Saqqara and Their Cult in Middle Kingdom Egypt	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 In Nichole Maria Brisch and Fumi Karahashi (eds.), Women and Religion in the Ancient Near East and Asia, Studies in Ancient Near Eastern Records., De Gruyter	6. 最初と最後の頁 303-338
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1515/9781501514821-015	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 TAKAHASHI, Kazumitsu	4. 巻 1
2. 論文標題 The New Kingdom Pottery from a Layer of Limestone Chips above the Tomb of Userhat (TT47) in the Theban Necropolis	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Proceedings of the Twelfth International Congress of Egyptologists, 3rd-8th November 2019	6. 最初と最後の頁 335-341
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 阿部善也・村串まどか	4. 巻 786
2. 論文標題 蛍光X線分析の進化	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 考古学ジャーナル	6. 最初と最後の頁 6-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿部善也ほか	4. 巻 84(87)
2. 論文標題 藤田美術館所蔵の国宝「曜変天目茶碗」の理化学的研究－釉薬の光彩の発色に関して－	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 文化財科学	6. 最初と最後の頁 31-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近藤二郎	4. 巻 2
2. 論文標題 古代西アジア 新石器時代からヘレニズム時代まで	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『岩波講座世界歴史02：古代西アジアとギリシア～前1世紀』岩波書店	6. 最初と最後の頁 3-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河合 望	4. 巻 2
2. 論文標題 新王国時代第十八王朝のエジプト	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『岩波講座世界歴史02：古代西アジアとギリシア～前1世紀』岩波書店	6. 最初と最後の頁 199-215
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 KAWAI, Nozomu	4. 巻 9
2. 論文標題 The Time of Tutankhamun. What New Evidence Reveals	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Scribe: Magazine of the American Research Center in Egypt	6. 最初と最後の頁 44 - 53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 KAWAI, Nozomu	4. 巻 30
2. 論文標題 Intact Simultaneous Multiple Burials on the slope of an Outcropping in North Saqqara	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 The Star Who Appears in Thebes. Studies in Honour of Jiro Kondo, eds by N. KAWAI and B. DAVIES, Abercromby Press	6. 最初と最後の頁 183-206
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 TAKAHASHI, Kazumitsu	4. 巻 1
2. 論文標題 The Possible Meaning of Intentional Breakages on New Kingdom Amporae from Dahshur North	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 The Star Who Appears in Thebes. Studies in Honour of Jiro Kondo, eds by N. KAWAI and B. DAVIES, Abercromby Press	6. 最初と最後の頁 465-473
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Sakuji YOSHIMURA, Ken YAZAWA, Hiroyuki KASHIWAGI, Kazumitsu TAKAHASHI et al.	4. 巻 10
2. 論文標題 A Brief Report of the Excavation at Dahshur North: Twenty-Seventh Season, 2020	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 The Journal of Shouhei Egyptian Archaeological Association	6. 最初と最後の頁 24-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 阿部善也・村串まどか	4. 巻 95(12)
2. 論文標題 X線分析から明らかになる古代ガラスの起源と流通	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 色材協会誌	6. 最初と最後の頁 370-374
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近藤二郎	4. 巻 6
2. 論文標題 考古学	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ブリタニカ国際年鑑（2022年版）	6. 最初と最後の頁 140-141
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nozomu Kawai	4. 巻
2. 論文標題 Exploring the New Kingdom Tombs at North Saqqara: Preliminary results of the Archaeological Survey at North Saqqara. The 2016 and 2017 season,	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Abusir and Saqqara in the year 2020, ed. by M. Barta, F. Coppens, Prague	6. 最初と最後の頁 245-262
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nozomu Kawai	4. 巻 -
2. 論文標題 A Newly discovered Roman catacomb at North Saqqara: Recent results and future prospects	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Abusir and Saqqara in the year 2020, ed. by M. Barta, F. Coppens, Prague	6. 最初と最後の頁 331-346
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kazumitsu Takahashi	4. 巻 30
2. 論文標題 Simplification in Production Technology of Blue-Painted Pottery in New Kingdom Egypt	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Bulletin de liaison de la ceramique egyptienne	6. 最初と最後の頁 5-33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Jiro Kondo, S.Yoshimura, N. Kawai, K. Takahashi, R. Fukuda	4. 巻 27
2. 論文標題 Preliminary Report on the Thirteenth Season of the Work at al-Khokha Area in the Theban Necropolis by the Waseda University Egyptian Expedition	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Egyptian Studies	6. 最初と最後の頁 3-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nozomu Kawai	4. 巻 57
2. 論文標題 The Discoverry of a Roman Catacomb at North Saqqara	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Egyptian Archaeology	6. 最初と最後の頁 10-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nozomu Kawai	4. 巻 4
2. 論文標題 The Ceremonial Canopied Chariot Tutankhamun (JE61990 and JE60705) A Tentative Virtual Reconstruction	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 CIPEG Journal: Ancient Egyptian & Sudanese Collections and Museums	6. 最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿部善也・扇谷依季・日高遙香・海老沢美佳・中井泉・高橋寿光・河合望・近藤二郎	4. 巻 69
2. 論文標題 XRFスペクトルの半定量解析による壁画顔料の組成的特性化法の提案とエジプト・コンスウエムへブ墓壁画の非破壊オンサイト分析への応用	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 分析化学	6. 最初と最後の頁 497-504
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2116/bunseki.kagaku.69.497	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 近藤二郎・吉村作治・河合望・高梁寿光・福田莉沙	4. 巻 27
2. 論文標題 第13次ルクソール西岸アル=コーカ地区調査概報	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 エジプト学研究	6. 最初と最後の頁 18-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計33件 (うち招待講演 15件 / うち国際学会 9件)

1. 発表者名 近藤二郎
2. 発表標題 日本におけるエジプト・コレクション
3. 学会等名 古代エジプト美術展講演会、福岡アジア美術館、2023年4月22日 (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 近藤二郎
2. 発表標題 アメンヘテプ3世墓 (KV22) と王家の谷・西谷
3. 学会等名 特別講演会 ツタンカーメン王墓発掘100周年 エジプト王家の谷の現在、東京国立博物館、2023年4月30日 (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 近藤二郎
2. 発表標題 エジプト考古学の現在 ツタンカーメン王墓発見100周年ー
3. 学会等名 栃木県オリエント協会創立550周年記念、第48回栃木県オリエントセミナー、2023年5月20日 (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 KONDO, Jiro
2. 発表標題 The Layout of Monuments in the City of Thebes: the Middle Kingdom to the New Kingdom
3. 学会等名 Symposium Cities and Urbanization in West Asia and Egypt - Shapes, Functions and Ideology, June 3 2023 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 近藤二郎
2. 発表標題 エジプト新王国第18王朝時代の王墓：その立地と構造
3. 学会等名 日本西アジア考古学会第28回総会・大会、特別講演会、2023年6月24日 (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 近藤二郎
2. 発表標題 古代エジプトの信仰と死生観
3. 学会等名 古代エジプト美術館展講演会、いわき市立美術館、2023年7月2日 (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 近藤二郎
2. 発表標題 古代エジプト人の信仰と死生観
3. 学会等名 古代エジプト美術館展講演会、東広島市立美術館、2023年11月5日 (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 近藤二郎
2. 発表標題 ウセルハト墓 (TT47) とコンスウエムヘブ墓 (KHT02) エジプト、ネクロポリス・テーベ、アル=コーカ地区、第14次調査
3. 学会等名 日本西アジア考古学会、第31回西アジア発掘調査報告会、88 - 90
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 KAWAI, Nozomu
2. 発表標題 New excavation at North Saqqara, Revealing the development of funerary landscape through millenia
3. 学会等名 Egyptological Seminar under Tower, University of Pisa (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 KAWAI, Nozomu
2. 発表標題 Tutankhamun's Reign - What New Evidence Reveals
3. 学会等名 Museo Egizio Lecture, Torino, Dec. 2023 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 KAWAI, Nozomu
2. 発表標題 Tutankhamun's Canopied Ceremonial Chariot: A Royal Vehicle for the Afterlife?
3. 学会等名 The XVIIIth International Congress of Egyptology, Leiden, Aug. 2023 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 河合 望
2. 発表標題 北サッカー遺跡のグレコ・ローマン時代のカタコンベとその周辺の調査について 第6次・第7次北サッカー遺跡調査概報
3. 学会等名 日本オリエント学会第65回大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 河合 望
2. 発表標題 エジプト、サッカー・ネクロポリスの展開を探る エジプト、第6次・第7次北サッカー遺跡調査(2023)
3. 学会等名 第31回西アジア発掘調査報告会、2024年3月24日、91 - 95
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 前川佳文ほか
2. 発表標題 旧補強剤の除去が壁画の保存状態に及ぼす効果
3. 学会等名 日本文化財科学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 馬場悠男
2. 発表標題 人類進化から見る子育てと古人骨から見る顎の弱体化
3. 学会等名 2023年度例会講演, 赤ちゃん歯科ネットワーク、Vol.10 No.1,14 -17 (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 KAWAI, Nozomu
2. 発表標題 Some Remarks on Tutankhamun's Officialdom
3. 学会等名 Transcending Eternity: The Centennial Tutankhamun Conference 2022, Luxor, Egypt (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 KAWAI, Nozomu
2. 発表標題 Some Remarks on the Locations and Nature of the New Kingdom Cemeteries at North Saqqara
3. 学会等名 Prospects of North Saqqara, The Egypt Exploration Society, (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 KAWAI, Nozomu
2. 発表標題 Neferneferuaten from the tomb of Tutankhamun Revised
3. 学会等名 The 73rd Annual Meeting of the American Research Center in Egypt, Irvine, USA (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 前川佳文ほか
2. 発表標題 ミャンマー・バガン遺跡における煉瓦造寺院の保存修復効果
3. 学会等名 日本文化財科学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 前川佳文ほか
2. 発表標題 明治時代の洋風建築にみられるスタッコ
3. 学会等名 文化財保存修復学会、第44回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 前川佳文、ダニエラ・マーフィー、ステファニア・フランチェスキーニ、近藤二郎、河合望
2. 発表標題 コンスウエムヘブ墓壁画の保存修復に向けた充填処置の施工実験
3. 学会等名 文化財保存修復学会第43回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Nozomu Kawai
2. 発表標題 Tutankhamun and his men and women: Satus and Representations of the Officials under Tutankhamun
3. 学会等名 The 72nd Annual Meeting of the American Research Center in Egypt (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 河合 望
2. 発表標題 ツタンカーメン王の天蓋付き二輪馬車と王権
3. 学会等名 日本考古学協会2021年度金沢大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 河合 望
2. 発表標題 エジプト学のフィールドワークにおける新しい記録方法と研究成果のデジタル化について
3. 学会等名 研究環境の変貌と東洋学・アジア研究、東洋学・アジア研究連絡協議会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 長谷川 奏・西本真一・恵多谷雅弘
2. 発表標題 ヘレニズム村落の構造を探る：エジプト・イドゥク湖沿岸コム・アル＝ディーバウ遺跡の考古学調査
3. 学会等名 第29回西アジア発掘調査報告会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 近藤二郎
2. 発表標題 ネクロポリス・テーベ研究；エジプト、ルクソール西岸アル＝コーカ地区、第13次調査
3. 学会等名 第28回西アジア発掘報告会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 前川佳文、ダニエラ・マーフィー、ステファニーア・フランチェスキーニ、近藤二郎、河合望
2. 発表標題 コンスウエムヘブ墓壁画の保存修復に向けた充填剤に関する研究
3. 学会等名 文化財保存修復学会第42回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 河合 望
2. 発表標題 王権シンボルとしてのトゥトアメン王の天蓋付きチャリオット
3. 学会等名 金沢大学エジプト学セミナー・ファラオの王権を考える
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 河合 望
2. 発表標題 エジプト、サッカラ遺跡での新発見
3. 学会等名 金沢大学超然プロジェクト「古代文明の学際研究の世界的拠点形成」オンライン・シンポジウム、世界の古代文明をめぐる最新調査研究、 金沢大学
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 河合 望
2. 発表標題 エジプト、北サッカラ遺跡の未知の墓を掘る：ローマ支配期のカタコンベの意義および今後の調査の展望
3. 学会等名 第28回西アジア発掘調査報告会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Nozomu Kawai
2. 発表標題 Excavating the first Roman Catacomb at Saqqara
3. 学会等名 Egypt Exploration Society, Online Lecture (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 坂上和弘・馬場悠男・河合望
2. 発表標題 2019年に行われたエジプト、北サッカラ遺跡出土単純埋葬墓遺体の形質人類学的調査
3. 学会等名 日本人類学会大会（山梨大学医学部）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 高橋寿光
2. 発表標題 土器からみた古代エジプト新王国時代の埋葬
3. 学会等名 日本オリエント学会第63回大会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 Nozomu KAWAI and Benedict G. DAVIES (Eds.)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Abercromby Press	5. 総ページ数 565
3. 書名 The Star Who Appears in Thebes. Studies in Honour of Jiro Kondo,	

1. 著者名 河合 望	4. 発行年 2021年
2. 出版社 雄山閣	5. 総ページ数 298
3. 書名 古代エジプト全史	

1. 著者名 近藤二郎	4. 発行年 2020年
2. 出版社 エクスナレッジ	5. 総ページ数 159
3. 書名 古代エジプト解剖図鑑	

1. 著者名 近藤二郎	4. 発行年 2021年
2. 出版社 誠文堂新光社	5. 総ページ数 400
3. 書名 星座の起源：古代エジプト・メソポタミアにたどる星座の歴史	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	河合 望 (Kawai Nozomu) (00460056)	金沢大学・新学術創成研究機構・教授 (13301)	
研究分担者	高橋 寿光 (Takahashi Kazumitsu) (30506332)	金沢大学・新学術創成研究機構・研究協力員 (13301)	
研究分担者	柏木 裕之 (Kashiwagi Hiroyuki) (60277762)	東日本国際大学・エジプト考古学研究所・客員教授 (31604)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	前川 佳文 (Maekawa Yoshifumi) (80650837)	独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所・文化遺産国際協力センター・主任研究員 (82620)	
研究分担者	馬場 悠男 (Baba Hisao) (90049221)	独立行政法人国立科学博物館・その他部局等・名誉研究員 (82617)	
研究分担者	阿部 善也 (Abe Yoshinari) (90635864)	東京電機大学・工学研究科・助教 (32657)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
エジプト	Ministry of Tourism and Antiquities			